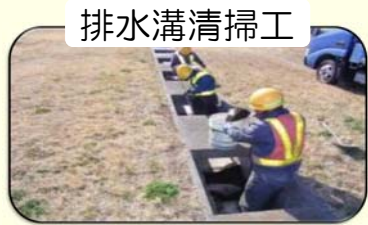


## <空港土木施設の維持管理の目的>

空港では、**航空機の安全運航及び定時性の確保を目的**として、各土木施設（滑走路・誘導路・駐機場・着陸帯等）の機能を正常に保つため、年間を通じて、点検、清掃、修繕、除雪作業を実施しています。



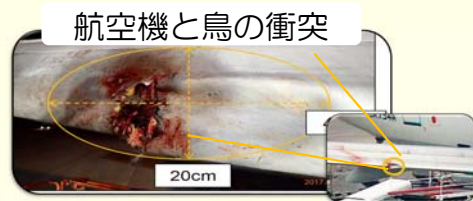
## <現状の課題・問題>

着陸帯の草刈、舗装の清掃等の実施時期・頻度は、過去の実績に応じて設定されている例が多く見られます。

しかし、現場条件によって航空機運航や空港運用に影響する事案が発生していることから、最適な実施時期・頻度の考え方や維持管理水準の設定等、**現場条件に応じた効率的かつ効果的な維持管理**を実現するための調査研究を行っています。

## ～航空機運航や空港運用に影響する事案～

- 草刈後の草地に繁殖したバッタ類を捕食するため鳥類が多数飛来
- 草地に鳥類の餌となる雑草が発生
- 航空灯火周辺の草丈が高くなり視認性が低下
- 航空機のタイヤ跡で路面標識が汚れ視認性が低下
- 航空機が走行する舗装上に土砂等の異物が発生



灯火の視認性低下



標識の視認性低下



舗装上の異物発生



## <的確な維持管理の実現に向けて>

各空港の現況調査の結果、以下の傾向が見られます。

- 草地の草丈は、**平均で30～70cm程度**見られ、**概ね南の地域が高く、北の地域が低い**
- 草地の草丈が高い要因として、**芝よりも草丈が高くなる雑草が多く繁茂している**
- 舗装面の塵埃量については、特に**沿岸部の空港で多く見られるが、空港の規模による相関性はない**
- 排水溝の堆積量は、各空港とも一定の土砂堆積が見られ、**流末に行くほど堆積量が増加する**

今後、各空港の維持管理状況データを収集・分析し、維持管理水準の定量的指標の検討等を行います。

